

258年

甘露三年（魏）

皇帝

曹髦（魏高貴郷公）

皇后

卞氏（父は卞隆）

皇太子

三公（魏）

太傅：司馬孚（前太尉）

太尉：高柔（前司徒）

司徒：鄭冲（前司空）

司空：諸葛誕（前征東大將軍）（謀反・死亡） 王昶（驃騎將軍）

その他の要職（魏）

?尚書事：司馬昭（大將軍）

太常：

光祿勳：

衛尉：

太僕：

廷尉：

大鴻臚：

宗正：

大司農：

少府：

大將軍：司馬昭（大都督を加号）

驃騎將軍：王昶

車騎將軍：孫壹

衛將軍：？

地方官

冀州牧：
幽州牧：
并州牧：
青州牧：
徐州牧：
兗州牧：
揚州刺史：？
雍州刺史：王經
交州牧：孫壹

主な事件

- ▶ 三年春二月、大將軍の司馬昭は壽春城を落し、諸葛誕を斬る。《三国志魏書三少帝紀高貴郷公髦》
- ▶ 三月、詔して曰わく「古には敵に勝てばその屍を収めて京觀を築いた。昏逆を懲らし武功を明らかにするためである。漢の孝武元鼎中には、桐を改めて聞喜とし、新を改めて獲嘉と為す。大將軍は六戎を綜覽し、丘頭に軍營を置いた。丘頭を改めて武丘と為す。武をもって亂を平定し後世忘れないようにする」《三国志魏書三少帝紀高貴郷公髦》
- ▶ 夏五月、大將軍の司馬昭に命じて相國と為す。晉公に封じ、食邑八郡、九錫を加える。司馬昭は前後九回に渡って讓り、沙汰止みとなる《三国志魏書三少帝紀高貴郷公髦》
- ▶ 六月丙子、詔して曰わく「昔、南陽郡の山賊が擾攘し、故太守の東里袞を質として脅かさんとする。功曹の應余は一人袞を担いで逃げ難を免れた。余は顛沛殞斃、殺身濟君。其下司徒、署余孫倫吏、使蒙伏節之報《三国志魏書三少帝紀高貴郷公髦》余字子正、天姿方毅、志尚仁義、建安二十三年為郡功曹。是時、蜀不賓、疆多虞。宛將侯音扇動山民、保城以叛。余與太守東里袞當擾攘之際、進竄得出。音即遣騎追逐、去城十里相及、賊便射袞、飛矢交流。余前以身當箭、被七創、因謂追賊曰：「侯音狂狡、造為凶逆、大軍尋至、誅夷在近。謂卿曹本是善人、素無惡心、當思反善、何為受其指揮？我以身代君、以被重創、若身死君全、隕沒無恨。」因仰天號哭泣涕、血下。賊見其義烈、釋袞不害。賊去之後、余亦命。征南將軍曹仁討平音、表余行、并脩祭。太祖聞之、嗟歎良久、下荊州復表門閭、賜穀千斛。袞後為于禁司馬、見魏略游傳《三国志魏書三少帝紀高貴郷公髦に引く楚國先賢傳》
- ▶ 六月辛卯、大いに淮南之功を論じ、封爵行賞があった。各々格差があった《三国志魏書三少帝紀高貴郷公髦》
- ▶ 秋八月甲戌、驃騎將軍の王昶を司空と為す《三国志魏書三少帝紀高貴郷公髦》
- ▶ 八月丙寅、詔して「夫養老興教、三代所以樹風化垂不朽也、必有三老、五更以崇至敬、乞言納誨、著在惇史、然後六合承流、下觀而化。宜妙簡德行、以充其選。關侯王祥、履仁秉義、雅志淳固。關侯鄭小同、恭孝友、帥禮不。其以祥為三老、小同為五更。」車駕親率司、躬行古禮焉《三国志魏書三少帝紀高貴郷公髦》
- ▶ 是、青龍、龍が頓丘、冠軍、陽夏縣の境の井戸の中に見られた《三国志魏書三少帝紀高貴郷公髦》
- ▶ この年、曹奐を安次県常道公に封じる。《三国志魏書三少帝紀陳留王奐》
- ▶ 六月甲寅、曹奐は洛陽に入る《三国志魏書三少帝紀陳留王奐》

誕生者

死没者